

第10回富士山原始林トレイルラン in 精進湖・本栖湖（2018年10月21日）を開催するにあたって、レース開催が自然環境に与える影響を調査するために、レース前後で写真撮影によるモニタリングを10ヶ所行い、その結果を報告する。

モニタリングポイント①～⑤は、レース開催当日に地点誘導スタッフがレース前後に写真撮影を行った。

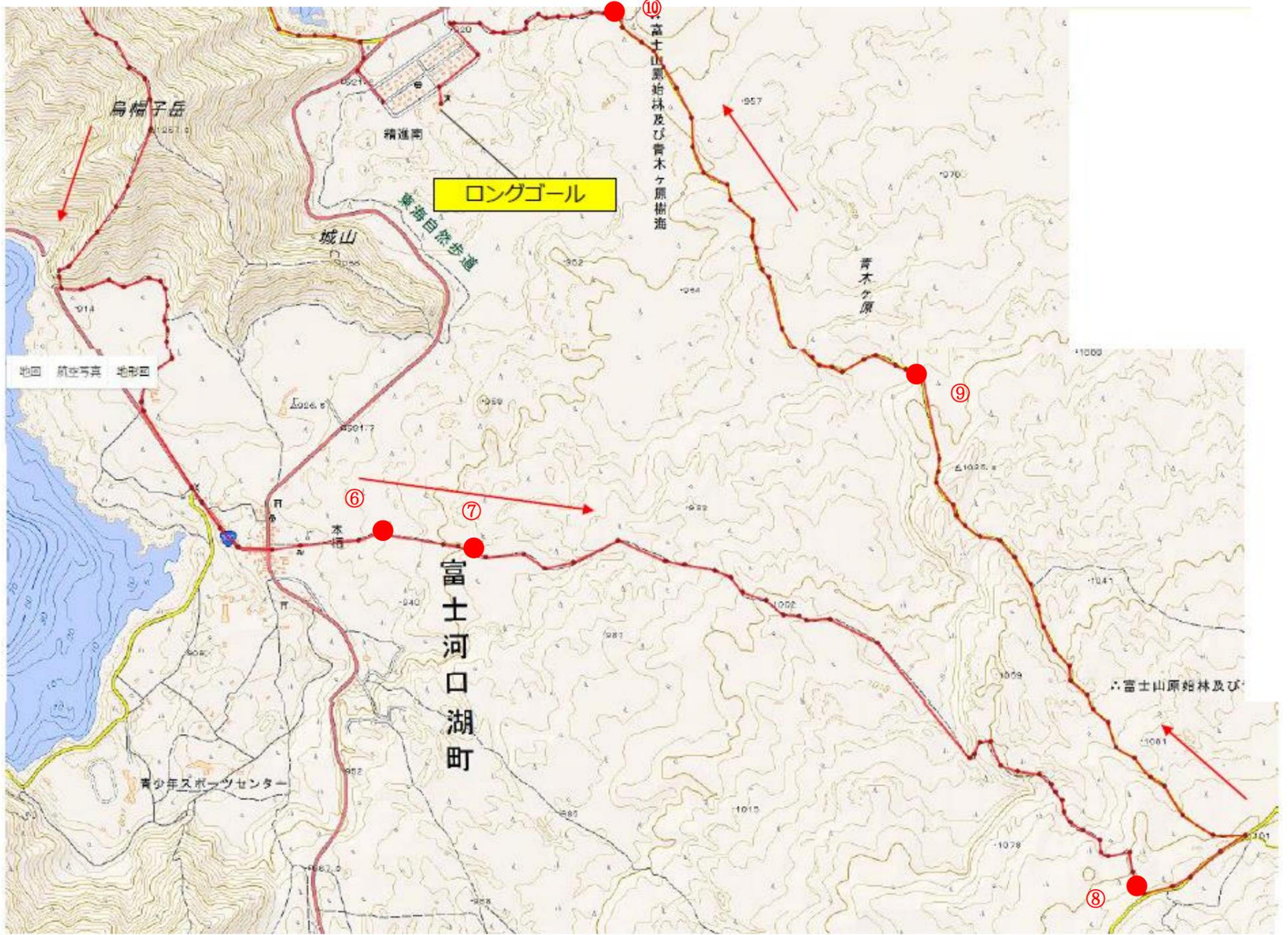
モニタリングポイント⑥～⑩は、レース開催前日の午前中（前）と、レース開催当日の全選手が通過した直後（後）に、同一のカメラマンが撮影した。

レースには539名（ロングコース279名、ショートコース260名）が出走し、完走率は98.9%であった。天候はレース開催前日夜に雨が降り（時間降雨量1～2mm/hr）、レース開催日は快晴であった。

- ① 旧中道往還（阿難坂峠手前） 橋を渡った直後のやや急斜面＞  
トレイル中央に幅30～60センチの踏み跡がみられる。トレイルをはみだしての踏み跡や、蹴り出しによる崩落は見られない。
- ② 阿難坂峠（女坂峠）＜旧中道往還と御坂山塊稜線の交差点＞  
トレイル中央に幅60～80センチほどの踏み跡が見られる。トレイルを外れての踏み跡や洗掘は見られない。
- ③ 三方分山・山頂＜四尾連湖へと向かうトレイルとの三方分岐点＞  
広い山頂部分には幅200センチほどの渡って踏み跡が見られるが、洗掘は見られない。
- ④ 精進峠＜精進湖畔へと下るトレイルとのT字路＞  
トレイル中央に踏み跡が見られるが、トレイルをはみ出しての踏み跡や、植生への踏み込みは見られない。
- ⑤ パノラマ台＜広い山頂部分から下山ルートに差し掛かる場所＞  
年間を通じて一定のハイカーが歩く場所である。レース後にはトレイル中央に少しの踏み跡が見られるが、トレイルをはみ出しての踏み跡や、植生への踏み込みは見られない。
- ⑥ 本栖林道＜林業車輛が立ち入るエリアで、年間を通じてタイヤ痕やぬかるみが見られるエリア＞  
選手が右折するポイントであるため、トレイルの右半分に幅100センチほどの踏み跡が見られるが、トレイルをはみ出しての踏み跡や洗掘は見られない。
- ⑦ 本栖みち（水源小屋前）＜林業車輛が立ち入るエリアで、年間を通じてタイヤ痕が見られるエリア＞  
レース開催前よりタイヤ痕による洗掘が見られている。レース後には踏み跡が見られるが、トレイルをはみ出しての踏み跡や、洗掘の増強は見られない。
- ⑧ 本栖みち（県道71号）＜林業車輛が立ち入るエリアで、年間を通じてタイヤ痕が見られるエリア＞  
選手は左折して県道71号合流する場所であり、トレイルの左半分に幅100センチほどの踏み跡が見られるが、トレイルをはみ出しての踏み跡は見られない。
- ⑨ 精進口登山道（乾徳道場分岐）  
トレイル中央に幅80～100センチの踏み跡が見られるが、トレイルを外れての踏み出しや植生の損傷はみられない。
- ⑩ 東海自然歩道（精進口登山道交差点近傍）  
トレイル中央に幅60～80センチ踏み跡の増強が見られるが、トレイルをはみ出しての踏み跡や、洗掘、またトレイルの拡幅は見られない。

# H30 原始林トレイルラン コース全体図 (モニタリングポイント図)





## <結果、考察>

- ①539 名が参加したトレイルレースを開催して、レース前後のトレイル(登山道)の状況を写真にて比較検討した。レース後には多くの場所で踏み跡の増強見られた。選手の踏み跡は幅 100 センチ以内であり、おおむねトレイルの中央に集中していた。右折や左折をするポイントでは踏み跡はトレイルの右半分や左半分位偏る傾向がみられたが、トレイルを外れての踏み跡や、トレイルの拡幅は認めなかった。また周囲の植生への踏み出しも確認されなかった。
  - ②レース開催後に新しい洗掘の発生や、既存の洗掘の増強はみられなかった。
  - ③レース前夜に降雨がみられたが、土壌面への影響はみられなかった。
  - ④レース開催当日、全選手の通過直後にスタッフ 15 名でマーキングテープや矢印看板の撤去を行い、合わせてトレイルのゴミ拾いを行った。選手が落としたと思われるゴミは見られなかった。
  - ⑤本栖林道は林業者のための作業道である。水捌けの悪いエリアであると同時に、作業車がしばしば進入しているために、通年でタイヤ痕、ぬかるみ、水溜りの見られる場所である。大きな水溜まりを避けることで選手が林道からはみ出すことがないよう、レース開催時にはマーキングテープやロープなどで選手を誘導しているが、選手が林道からはみ出して走行した様子は見られなかった。
  - ⑥レースが開催されるようになった 2009 年と比べて、東海自然歩道、精進口登山道などのゴミは大幅に減った。毎年のレース開催に伴う定期的なクリーンアップ(ゴミ拾い)の成果と考える。
  - ⑦開催日が雨天の場合、トレイルの洗掘がみられることがあるので、降雨量が 10mm/hr を超える場合は自然への影響を考え、レース開催の中止を検討する必要があると考える。
  - ⑧コース全域が国立公園内の貴重なエリアであるため、今後ともレース開催と並行して自然環境の定点観測を継続していく必要があると考える。
- 。

総括 レポート作成

福田六花(医学博士) 富士山原始林トレイルラン・プロデューサー